

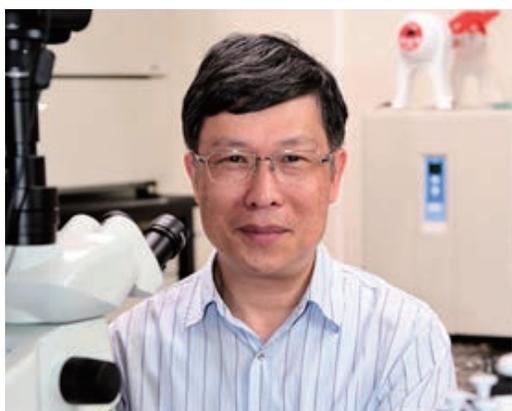
岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 41
2019.9

TOPICS

1

沈教授が、スウェーデン王立科学アカデミーより「グレゴリー・アミノフ賞」を受賞！



異分野基礎科学研究所の沈建仁教授・副所長が、カリフォルニア工科大学のDouglas Rees教授と共同で、スウェーデン王立科学アカデミーより結晶学の分野で優れた業績を上げた研究者に贈られる、2020年度のグレゴリー・アミノフ賞 (Gregori Aminoff Prize) に選ばれました。授賞式と受賞記念講演は、2020年3月30・31日にストックホルムで開催される、同アカデミーの年会にて行われる予定です。

グレゴリー・アミノフ賞は、世界中で結晶学の分野で優れた業績を上げた研究者に、同アカデミーより年1件授与される賞です。今回、沈教授とRees教授は、「生物学における酸化還元金属クラスターの機能解明への根本的な貢献」により共同受賞が決定。沈教授は、これまで光合成における、光化学系II膜タンパク質複合体による水分解反応の触媒であるマンガンクラスターの構造と機能解明に取り組んでおり、これまでの業績が受賞対象となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8748.html

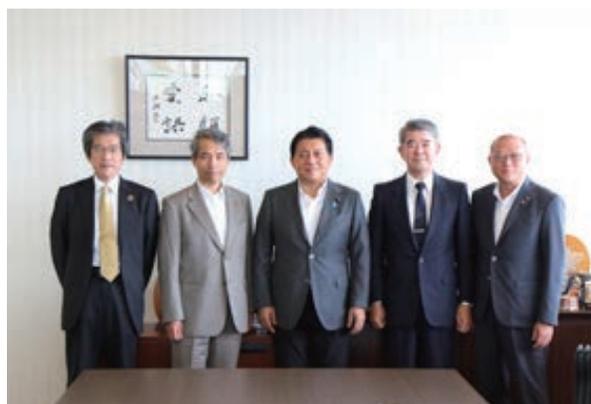
TOPICS

2

平井国務大臣が来学 榎野学長と懇談し、工学部を視察

9月4日、平井卓也国務大臣 (IT政策担当) が本学を訪れ、榎野博史学長と懇談し、工学部を視察しました。平井大臣は、9月3～5日に本学で開催された、国内最大級の情報関係の全国大会である第18回情報科学技術フォーラム (FIT) に合わせて来学。岡山商工会議所の松田久会頭と学長室を訪れ、榎野学長からSDGs関係を中心に最近の岡山大学の活動について説明を受けました。平井大臣はFITで、「社会全体のデジタル化とその先の日本」と題して、IT担当大臣として進めている政策について講演しました。

工学部では、顔写真を用いた2次元コード作成の技術や、舌を摘出した患者の声を音声合成によって聞き取りやすくする技術など、情報処理関係の3つのデモンストレーションを視察。技術的な質問や、貴重なご意見をいただきました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8732.html

Pick up!

グッドジョブ支援センター 学長・理事との懇談会を開催



雇用障がい者の就業支援などを行う本学のグッドジョブ支援センターは8月29日、学長・理事との懇談会を開催しました。榎野博史学長や高橋香代理事をはじめ、センター職員ら計74人が参加しました。

榎野学長が「グッドジョブ支援センターの皆さんの働きのおかげで、岡大農場の売上が伸びている。今後も業務に励んでいただきたい」と激励。懇談の時間では、学長から販売促進用のキャッチコピーを農場の生産物につけるよう提案があるなど、和やかな雰囲気の中、楽しいひと時を過ごしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8722.html

TOPICS

3

国内最大規模の産学マッチングイベント 「イノベーション・ジャパン2019」に出展

8月29・30日、「イノベーション・ジャパン2019 ～大学見本市 & ビジネスマッチング～」(東京ビッグサイト)に出展しました。

初日は、岡山大学病院心臓血管外科の逢坂大樹技術専門職員(共同研究者：大学院医歯薬学総合研究科 大澤晋講師)が「Diamond like carbon技術を用いた狭窄しない人工血管の開発」と題し、従来製品と比べて優れた生体適合性を発揮するダイヤモンドライクカーボン(極薄高耐久性カーボン膜)の人工血管への応用研究について紹介。2日目は、大学院ヘルスシステム統合科学研究科の世良貴史教授が「人工核酸結合タンパク質の医療・農業への応用」と題し、遺伝情報の発現量の人為的な調節を可能にし、医療や農業へ応用できる人工核酸結合タンパク質のデザイン・創出手法について講演しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8742.html



TOPICS

4

令和元年度秋季学位記授与式を挙行



本学は9月25日、令和元年度秋季学位記授与式を本学創立五十周年記念館で行い、学部生・大学院生ら計104人が思い出深いキャンパスを巣立ちました。

式では榎野博史学長が学部・研究科などの総代3人に学位記を授与。榎野学長は英語で式辞を述べた後、卒業生・修了生を代表して、環境生命科学研究科のマデ アユ ヒタプラディウィ スリアディさんが「岡山大学で学んだ一番大切なことは、善悪問わず、どのように人生のあらゆる些細なことを謙虚に感謝し続けるか、そしてどのように忍耐を保つかということです」と、答辞を述べました。

スーツや各国の礼服に身を包んだ卒業生らは式後、友人や後輩、家族らと記念撮影したり、研究室を訪れるなどして、別れを惜しんでいました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8762.html

PRESS
RELEASE

1

イネの選択的養分吸収に必要なカスパリー帯の形成機構を解明

資源植物科学研究所の馬建鋒教授らの研究グループは、イネの根のカスパリー帯の形成に必要な遺伝子を世界で初めて突き止め、選択的養分吸収における役割を解明しました。

本研究ではOsCASP1という遺伝子が、内皮のカスパリー帯の形成に関わることを発見。OsCASP1を破壊すると、内皮のカスパリー帯の形成が不完全となり、ミネラル吸収のコントロールができなくなって植物の生育が阻害されてしまいました。本研究成果により、長年不明だったカスパリー帯形成の分子機構が明らかとなりました。これにより植物の養分吸収機構の理解を深めることができ、ミネラルの過不足が生じる不良土壌での植物の生育の改善や、作物の栄養価の向上などへの応用が期待されます。本研究成果は9月5日、米国の植物科学のトップジャーナル「The Plant Cell」のオンライン版に掲載されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id659.html

PRESS
RELEASE

2

自然界で最小の励起エネルギーをもつ原子核状態の 人工的生成に成功 ー超精密「原子核時計」実現に大きく前進ー

岡山大学異分野基礎科学研究所の吉村浩司教授、産業技術総合研究所(産総研)、理化学研究所、大阪大学、京都大学、東北大学、ウィーン工科大学、高輝度光科学研究センター(JASRI)の共同研究グループは、世界で初めてアイソマー状態を人工的に生成することに成功しました。本方法は大型放射光施設(SPring-8)の高輝度X線を用いるもので、放射線の少ないクリーンな環境下でアイソマー状態を自在に生成できるという利点があります。これによりアイソマー状態の研究が進展し、原子核時計の実現に向けて大きく前進するものと期待されます。本研究成果は英国時間9月11日、英国学術雑誌「Nature」のオンライン版に掲載されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id658.html

